

会長時評

帰島5周年記念行事を終えて 大成功を次のステップに



敬老の集いで100歳の祝状を受ける佐藤会長のお母様であるしげ子さん

帰島5周年記念式典は島民や各団体等の協力で大盛況のうちに終わった。今後は人工透析機の導入を第一歩に、「安心の島づくり」を進めていく努力を続けたい。

関係者の協力に感謝

帰島5周年記念感謝と交流のつどいは、9月4日に約600人が参加して、旧阿古小学校体育館で実施。その後、5日に島内視察が行われた。関

三宅島新報

発行所：三宅島ふるさと
再生ネットワーク
〒100-1101
東京都三宅島三宅村神着 320-2
Tel. 090-4922-0798
発行人：会長 佐藤就之

事務局便り

- 世話人会のお知らせ
日時：11月17日(水)
18:30～
場所：喫茶ルノアール
会議室(巣鴨駅前店)
- 新年会のお知らせ
日時2011年1月29日(土)
場所：ピストロおきみくら
詳細は追ってご連絡します。ご参加を心からお待ちしております。
- ご寄付のお願い
郵便振替口座
口座番号：00120-3-545036
講座名称：三宅島ふるさと
再生ネットワーク

事務局：あすなろ保育園内
郵便番号：173-0005
住所：板橋区仲宿 25-6
電話・FAX：03-(3963) 5697
担当 横山

連記事2、3面
この記念行事の成功は、島民、各団体員、役場職員などの皆さんが献身的に協力、努力して取り組んだ結果だ。招待者と島民、シルバー人材センターなどの協力者が猛暑にも負けない熱気で一体となり盛り上げた。今回は、元三宅島島民連絡会役員有志が「全島民参加型」を提案し実現した。参加してくださった招待者並びに全島民の皆さまに心より感謝を申し上げます。

課題の検証をこの機に

今年は、帰島5周年、噴火・火山ガス災害10年目の節目の年だ。世界に類をみない長期災害と被災者の実態は、正しく伝えられているだ

人工透析機が第一歩

今回の記念行事では、各新聞、テレビが大きく取り上げ注目された。まだ三宅島は、社会から孤立し忘れ去られていない。私たちは、頑張ろうと力を得た。これを機会に、三宅島再生の課題を検証していきたい。

現在の最大の課題は、「安心の島づくり」にある。まちに待った帰島を果しても安心して生活し島で命をまっとうできないければ何の意味がある。これは全島民の切実な願いで、人工透析導入は、それを実現するための第一歩だ。

「帰りたいくても帰れない島民」のなかにも島で人工透析の加療がでな

いために避難を継続し、または帰島を断念している人々がいる。さらに帰島後に発病し加療のためニーターンし家族が離散している深刻なケースも発生している。

9月28日の第三回定例議会では浅沼徳広、寺澤晴男、平川大作各議員が真剣に平野村長に再三、導入実現を迫った。しかし村長の答弁は、最後には、「できない」と断言。各議員と多数の議会傍聴者を咄然とさせた。村議会満場一致採択、千余の請願署名が頓挫した。

火山ガスのリスクに加えて村が村民と議会の意向に対してノーを突きつけては島での生活に希望を持つ事はできない。今後でも行動し人工透析導入を実現しよう。

感謝と交流のつどい

島民が一丸となつて

全島避難指示解除から5周年を迎えたことを記念して「感謝と交流のつどい」が9月4日に行われた。参加したのは600人。会場では帰島の際のボランティアなどの招待者と島民が再会を喜ぶ姿が見られたほか、島民の心づくしのもてなしに参加者から感謝の声が聞かれた。

600人が参加し盛大に

三宅高校生が感謝の言葉

帰島5周年記念感謝と交流のつどいは、9月4日午前10時30分から第一部の記念式典が始まり、平野村長、佐久間議長、長が挨拶、来賓祝辞では、石原知事のメッセージ、和田都議会議長、三宅都議会議員、上原東京災害ボラ

ンティアネットワーク事務局長らが祝辞を述べたのち、三宅高校生3人が感謝の言葉を述べて感謝をあたえた。第2部の交流会は、浅沼実行委員長挨拶、田中自治会連合会会長の乾杯音頭。ス

テージでは、各地区の郷土芸能や島民のメッセージ、「あの夏から10年、そして未来へ」のスライドとメッセージなどが続いた。

喜びの再会 各所で

今回のつどいの招待者の中には、全島避難中、避難先の各地域で島民の支援をしたり、全島避難指示解除後、東京ボランティアセンターのコーディネートで、帰島ボランティアとして活動

シルバー人材センターのみなさん

もてなしの気持ちを料理で



料理の心づくしを味わった

あの日の中、ご苦労様でした。招待者、参加者に味とてなした心は十分通じましたよ。(佐藤)

三日前から念入りに準備を

「アツおふくろの味だ」。参加者からの第一声。そのはずだ。主に郷土料理担当はシルバー人材センターの皆さんだ。明日葉のてんぷら、里芋、ムロアジ、トコブシ、テングサなど島の食材を使った料理が約600食分。しかも三日前から作業に取り掛かり、テント設営、防虫対策のために調理室と通路周辺の除草・清掃作業等の念の入れよう



最後は全員で万歳三唱



三宅高校生が感謝の言葉を述べる



各地区の郷土芸能を披露

訪ねる人が多かった。島を人々、5年ぶりという人

もいた。このような人々と会うのを楽しみにしていた島民も多く、会場の旧阿古小学校体育館では、多くの人が、手をとりあって再会を喜んでいました。また、招待者が島を離れる際には、たくさんの島民が見送り、持ちきれないほどの土産を手渡していたほか、船が岸壁を離れる際には、テープを持ち、いつまでも手を振り別れを惜しんでいた。



在京島民の状況を伝える一般紙

今年は、帰島5周年記念ということ、三宅島についての様々な報道を目にする機会が多かった。北区在住のTさんは、「9月にた

くさんの新聞やテレビで三宅島のことをやっつけて、懐かし

いと思いました。島に帰りたいという気持ちがありながらも体調が悪く、戻ることは諦めてしまいましたが、いつかもう一度三宅島へ行きたいと思っています」と島への熱い想いを話す。今年の夏は例年になく暑く、外に出かけることがほとんどなく、部屋で

複雑な在京島民の思い いつかもう一度ふるさとへ

町田市在住のAさん

「足りない在京者への援助」

私は、気管支ぜんそくの原因で島に帰ることができなかつたため東京都町田市で生活をしています。こ

こでの生活は、とても不便で、多くの苦勞があるのが現状です。三宅島新報や広報みやけの記事、訪問してくれ

帰島5周年記念行事

再会の演出

記念行事に参加して 舞踊家 鶴吉さん

「幼木から感じた明るい未来」

佐藤就之先生とのご縁で、三宅復興のお手伝いをさせていただいております。

島内視察で、初めて目の当たりにした大きな枯れ木に噴火の凄まじさを実感し、その根元から萌え出る若い緑木を見たとき、島の皆様の復興に対するエネルギーを象徴して

いるとともに、島の明るい未来を

暗示していると感じました。

近い将来に鶴吉一座を率いて、私が振りつけをした五木ひろしの「望郷の詩」を島の皆様の前で披露したいと思っていますので楽しみに。



記念行事に参加して 女優 京町さん

「思い出した感謝の心」

「みんなで三宅島に帰ろう！」約十年前、竹芝桟橋で行われた三宅島の方々の年越しイベントで私はNHK「行く年来る年」のカウンタダウンをさせていただいたのが昨日のようです。そして十年、緑が増えた島と子ども達の力づよさと島民の皆様の温

かいおもてなしに、忘れていた感謝の原点に立ち返りました。

神戸も阪神淡路大震災ですべてのものを失い、たくさんの方々に助けられました。私達も「ありがとう」を忘れず皆様と歩いていきます。



記念行事に参加して DTPA代表 相澤春歌

「伝わってきた復興への思い」

三宅島を訪れるのは4度目ですが、今までで一番の活気ある三宅島を見ることができました。

たくさんの料理や、様々な郷土文化など、全島民の精一杯のもてなしを感じました。地域関係なく、一丸となった島民の姿を見て、復興を願う

強い気持ちが伝わりました。しか

し一方で、帰りたくても帰れない在京者や、高濃度地区問題、医療問題などまだ問題はたくさんあります。そのような人たちが取り残されずに、復興していったほしいです。



TOPIC

○元三宅高校教員の村榮先生が3冊目を出版したので紹介する。噴火を語り継ぐことに役立てればと先生は願っている。

三宅島噴火始末記

―帰島5年間の記録―

本体 1400 円＋税

文芸社 03-5369-2299

村先生宅は電話帳参照

○一橋大学社会学部・社会学研究科町村啓志ゼミの学生12人が昨年9月に調査に訪れ、34人の島民、在京島民の聞き取り調査をした報告書が出た。

報告書では、復興について東京都は、復興は終わり「振興」の段階だとしていること。主にメディアは道半ばとしていること。元に戻す復興でなく新たな「再生」を行うべきとの主張があることが述べられている。

式年遷巡―三宅島；再生；の営み―
問い合わせ

一橋大学院社会学研究所
町村啓志研究室

TEL・FAX 042-580-8642

【ご寄付者名】

大石真様、菅野善一郎様、中村徹様、島市売上、荻野和子様、小曾寿美子様、佐藤宗ノ子様、神楽坂青空フェスタ売上げ
(8月16日～10月15日)
ありがとうございました。

明日葉天ぷら 2時間で完売

神楽坂のあおぞら市に5回目の参加



お客さんとの会話も弾む

多くの人が訪れたふるさとネットのテントに恵まれ、12時の開始直後から多くの人々がふるさと

ふるさとネットは、10月3日に神楽坂商店街で行われたあおぞら市に参加し、明日葉など島の特産品を販売した。参加は5回目ということでリピーターも多く、売れ行きは良好だった。

今回、ふるさとネットがあおぞら市で販売したのは、明日葉、くさや、里芋に加え、初の出品となるムロアジの干物とヨモギ餅など。また、毎回好評の実演販売には、明日葉の天ぷらにフライドポテトが加えられた。

お客さんの声(24歳男性)

「三宅はマイブーム」

あおぞら市の三宅島特産店には、5月のときに初めて来たので、今回が2回目です。

5月に買ったムロアジのくさやと明日葉の天ぷらが美味しかったので、これは現地へ行くしかない、今年の夏には三宅島を訪ねました。

島では墓参りに行くというおばちゃんのライトバンに乗せてもらい、千年桜や明日葉の畑を観ました。印象的だったのは夕焼けですね。ちょうどお盆だったのですが、三宅島の方は、日が暮れると海岸から海にむかって線香をあげるといことも知りました。

そんなこんなで三宅島がマイブームになっていて、今回のあおぞら市に来るのもずっと前から決めていました。

当日は好天に恵まれ、12時の開始直後から多くの人々がふるさと

ネットのテントを訪れた。特に好評だったのは明日葉で、天ぷらは開始から2時間程で完売する

リピーターが大幅増

ふるさとネットが、あおぞら市に参加するのは今回が5回目になる。そのため、地元でも知名度が高く、三宅の特産品を購入するのを楽しみにしてくれている人も多くなっている。今回購入してくれたお客さんの中にもリピーターが

6時には、持参したすべての商品を売り切ることができた。

なり多く、「いつも明日葉買っているよ」や「くさやの味が忘れられない」などの話が聞かれた。また、テントに展示した写真を見て、島の現状を販売員に質問する人もいた。

編集後記

帰島5周年を迎えて、島で行われた記念行事は大いに盛り上がりました。

まだ問題も多く、それらを早く解決することとが今後の課題ではありますが、島の再生に結びつけられるようになってほしいと思います。

(DTPA一同)